

流山稲門会会員になって

はじめまして。大野 亨（おおの とおる）と申します。
私は、生まれ育ったのがお隣の松戸市で、社会人になってから広島→埼玉→東京（2カ所）と転勤で渡り歩き、2019年に流山に家族とともに引っ越してきました。
そこへ、自宅から近い会場でラフな服装で気軽に参加OKという「2023年稲門交流パーティーin流山」の開催を知り、思い切って初参加することが入会のきっかけとなりました。はじめは大先輩ばかりで緊張しましたが、私のような若輩者に、皆さん本当に温かく接していただき感謝の気持ちで溢れるパーティーになりました。
聞くとところによると、諸先輩方から受け継がれた熱心な取り組みの歴史があり、近隣の稲門会と比べても流山稲門会は活発に活動されているとのこと。若輩者ですが、これからも微力ながら長い歴史に加われればと思います。



大野 亨 2002年 商卒

心に残る思い出 スイスの野の花

1968年の夏、欧州学生見学交歓旅行に参加した。このツアーは、当時海外ツアーがまだ一般的でなく、学生に外国を見聞させ、視野を広める機会を与えることを目的としたツアーで、第1次の募集人数は120人、加えて慶應の学生も参加したかなり大規模なツアーであった。欧州の各地を巡り、文化や歴史に触れ、見識を深めると共に、大学を超えて新たな友人も増え、中には早稲田ボーイと慶應ガールが仲良くなり、カップルができたりもした。
スイスアルプスの麓の町にツアーが進んだとき、折しも彼女の誕生日を迎え、彼の発案で誕生祝いを行うことになった。もちろん何の用意もないため、プレゼント探しで早速困ってしまったが、あたりにはそれらしい店も見当たらず、途方に暮れ、宿の方に相談することになった。宿の方は、しばらく考えていたが、何かを思いいついたらしく、待っていてくださいと言い残し出かけて行った。そのまま待ったが一向に帰って来ない。私たちは無理難題をお願いしたことを後悔したが、しばらくしてようやく戻って来てくれた。見ると両手には自ら摘んでくれたらしいスイスの野の花が綺麗な花束に整えられ、大事に抱えられていた。
学生らしい慎ましい誕生会が始まり、プレゼントが披露された。もちろん花屋に飾ってあるようなご立派な花束ではなかったが、素朴で可憐な花束を受け渡したときの彼と彼女の表情は明るい希望に満たされており、優しくあたたかな気持ちがこもった最高のプレゼントとなった。居合わせた早稲田と慶應の仲間たち、宿のスタッフの方々までも、あたり一面ほのぼのとした幸せに包まれ、忘れられない思い出となった。
彼と彼女は故郷から遠く離れたスイスの地で、幸せな第一歩を野の花に囲まれて歩き始めた。



松岡紀夫 70年 法卒

ChatGPT 急速に進化する生成A I とは？

一昨年（2023年）の新学期が始まる頃、早稲田キャンパスの3号館で「学術的文章の指導員」のミーティングが開催されていました。その際の話が「年初来からChatGPTというテキスト生成AIが巷に広まっているが、学生が課題に使用したらどうしよう」と言う心配でした。その際は「まだまだ生成AIで作成した文章はぎこちなく、ひと読みでAI（人工知能）が作成した文章だと読み取れるから問題ない。」時期尚早が結論でした。時は流れその年末です。「これから学生への文章指導は大変だね」に話題は激変していました。大量の学習データを基に日々成長する生成AIの進化速度は我々の想像を遥かに超えたもので、生成AIの書いた文章は短期間に「人間が作成した文章かどうかを判断できない」レベルになっていました。
それではChatGPT(<https://chatgpt.com/>)を使用してみましょう。試しに「流山稲門会とはどのような組織ですか?」と入力すると瞬時に「流山稲門会は、日本の総合格闘技団体『Pancrase』の創設者である流山貴にちなんで名付けられた団体です」との回答が得られました。ここが一番危険な点です。ChatGPTは平気で嘘をつくことがあるのです。またその回答は常に同一ではありません。注意しなくてはならない点は「生成AIの回答は全てが正解ではなく責任も負いません」その責任は全てAIを用いた人間になります。生成AIは「人間の行うべき知能的な作業を代替するプログラムを作るシステム」です。

一部の公共機関では既に業務の平準化や省力化から生成AI利用を促進しています。今後、生成AIは、我々の暮らしの中にさらに浸透してきます。我々はAIに使われる（ただ受け入れる）のではなく、便利な道具として使いこなし、役に立てていくことが必要だと思います。日々新たな知識と広い視野を身につけ、様々な問題に対処していくことがこれからも肝要です。

本多 長 2019年人間科学研究科（大学院修士）修了

【編集部追記】東北旅行計画を練るため試しに使ってみました。質問と回答を右のQRコードからご覧ください。



早慶戦観戦記 六大学野球 春夏連覇

2024年秋の早慶戦は1勝すれば早稲田の優勝である、11月9日はスポーツ観戦同好会の勧誘で3名（清水さん、山本さん、笠井）が神宮の第一試合に集まりました。5位の慶應なら楽勝かと思いきや早慶戦は別物、慶應が着々と点を重ねさらに清原選手のホームランまであり9対1で早稲田は大敗しました。思わぬ敗戦の後は3名で反省会（御徒町の美味しい店）になってしまいました。翌10日も慶應に負け、勝ち点を提供し完全優勝は逃しましたが、12日の優勝決定戦で明治に勝利し、史上最多を更新する48度目の優勝を達成、9年ぶりの春秋連覇を成し遂げました。



連覇達成

来年の野球部はエースの伊藤が4年生で残りますが、ドラフト組の山縣、吉納が卒業するので心配です。メンバーが変わるといえば既に第二球場は取り壊され、跡には新秩父宮ラグビー場ができ、ラグビー場跡には新神宮球場ができるとされています。学生時代から慣れ親しんだあの神宮球場がなくなるのは寂しいですが、どんな新球場ができるのか楽しみです。

笠井敏晴 72年 教育卒

流山稲門会会報

発行責任者 会長 高橋孝志
電話 080-5180-0982

流山稲門会HP



入会希望の方は流山稲門会HPの
トップページの「会員募集について」を
ご参照下さい。

第8回稲門交流パーティーin 流山開催



受付にて



高橋会長挨拶



「第8回稲門交流パーティーin流山」（以下、交流パーティー）は、あいにくの雨天でしたが、流山おおたかの森駅前の「フードホールおおたかの森」を貸し切りにし2024年10月5日に開催されました。交流パーティーは、流山稲門会員だけでなく、市内在住の早稲田大学出身者（校友）や現役学生も一緒に集い、オープンにカジュアルに、キャンパスに戻った気分でおしゃべりに楽しむ交流の場として、流山稲門会にとっては年次総会と並ぶ重要な全体行事の一つです。
昨年に引き続き、特にカジュアルなレストラン、カジュアルな服装（ノーネクタイ・ノージャケット）と、「気軽」を重視しました。そのため、左ポケットにつける従来型の名札ではなく、服にそのまま貼って剥がせるポストイットのような名札を受付でお渡ししました。定刻午後3時、安藤均幹事と坂梨圭子幹事の2名によるMC挨拶の中で、自己紹介とお互いを姓ではなく名前を呼びあって進めるという驚きの宣言でスタートしました。高橋孝志会長のオープニングスピーチが終わったちょうどその時、齋藤健衆議院議員（元経済産業大臣、早稲田実業学校中等部卒の繋がりがあります）が会場に駆けつけてくださいました。交流パーティーの開催の祝辞を頂戴しましたので、続けて乾杯のご発声もお願いし、景気づけのクラッカーが鳴る中、交流パーティーは、歓談タイムに続いて和やかに始まりました。着席形式なので、ゆっくり落ち着いてお酒や食事を楽しむことができ、また気の合った仲間との話も弾みました。特にお酒は早いペースで皆さんの体内に消えていきました。今年のお楽しみイベントは、市内屈指のハワイアンフラダンス団体「ハーラウフラオ アロハ ロコマイカイ」によるフラダンスを、全6曲（一部歌唱付）鑑賞し、迫力と優雅さを存分に楽しみました。

続いて、お楽しみ福引タイムです。皆さんにお配りした名札に抽選番号が 高らかに紺碧の空記されています。今年の賞品は、震災以降継続している東日本大震災の復興を願って、NPO団体「SAVE IWATE」から購入した商品の詰め合わせによる1-5位の賞品と、4区の奥野靖三さんから寄贈された「WASEDA Tシャツ」3枚（非売品）の計8つです。皆さんの熱い注視の下、歓声とため息の混じる声が響き、当たった8名以外にとって、無情にも抽選は早々に終わってしまいました。楽しいひと時が過ぎ、お開きの時刻が近づいてきました。紺碧の空の合唱です。数年前の朝ドラ「エール」で、今はすっかり有名になりましたが、卒業後は私たちも校歌と違ってなかなか歌う機会が少ない第一応援歌です。流山稲門会では、年次総会の締めには校歌、交流パーティーでは紺碧の空と使い分けることにしています。DVDに合わせて、皆さん元気よく歌い、大いに盛り上がりました。さすがに最高の応援歌です。続いて、MCによるエールで締めました。

午後4時50分、須賀勝己幹事長によるクロージングスピーチにて、皆さんに出席の御礼を申し上げて閉会しました。今回は出席者35名で、会員以外の方の出席が叶わず残念でした。参加費を抑えるために、あえてランチタイムとディナータイムの間の時間帯に開催しました。いろいろと試行錯誤して、より楽しく、参加しやすい交流パーティーにしていきたいと思っています。皆さんからもご提案等ございましたら、役員等にお寄せいただきますようお願い申し上げます。 幹事長 須賀勝己 80年 法卒

ハーラウフラオ アロハ ロコマイカイ紹介

流山市を中心に松戸市と柏市で9年活動をしているフラダンスサークルでマウイ島ナーレイカウマカオウカの日本校として活動しています。メンバーは100人ほどで、2歳から小学生まで多くの親子が参加されています。

10月1日には、クムフラ(師匠)Napua Shilva より新しいチーム名をいただきました。毎週末色々なイベントに参加しています。いただいたチーム名はHalau Nawehi Pomaika'i です。幸福のみが訪れるチームという意味が込められています。現在は、2歳から70代までで構成しており、初級からコンペティションまで幅広く活動しています。先日のコンペティションでは小学生、大人、60代以上のすべての出演者が優勝いたしました。さらなる飛躍をできるよう様々なイベントなどにも参加して練習を深めています。また、我々のチームは流山市文化協会ハワイアンフラ部を創立し、現在まで5年間フラフェスを年に2回おおたかの森 SC とスターツおおたかの森にて行っています。近々では10月27日に500名のダンサーを招き、有名ミュージシャンとのコラボ企画など様々な企画を実施しました。来年度は6月にフラフェスを SC 前で開催し、11月22日に文化祭をスターツで開催予定です。観覧無料ですので、流山で熱いフラをどうぞ見に来てください。フラは元々男性のものでした。それはとてもかっこよく楽しいものです。フラは会話です。かっこいいフラを始めてみませんか。イメージが変わること必至です。現在チームには9人の男性がいます。ご一緒してくださるお仲間を募集しております。

今回は稲門会に参加させていただき耳馴染みのいい曲をセレクトしました。一緒に掛け声をかけてくださったり手拍子をしてくださったりとダンサーも楽しく踊ることができました。誠にありがとうございました。また機会がございましたら是非是非皆様とまたご一緒できますこと楽しみにしております

Mahalo Nui Loa. 文化協会ハワイアンフラ部 部長 水田静香



HP



MCのお二人



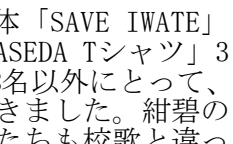
乾杯！



ロコマイカイ



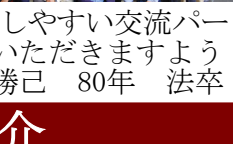
ロコマイカイ



ロコマイカイ



ロコマイカイ



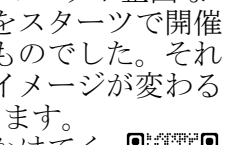
ロコマイカイ



ロコマイカイ



ロコマイカイ



ロコマイカイ